

平成28年度 施策評価シート

基本目標	区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	510 コミュニティの輪が広がるやさしいまちをつくる
施策	512 地域コミュニティを育む場や機会を増やす
施策の目標	コミュニティ活動の拠点となる施設が、地域住民の協力のもとに管理されるとともに、地域住民の交流や地域団体の活動の場として積極的に活用されるなど、地域の人々にとって、コミュニティを育む場や機会が多く用意されています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
地域集会所の利用者数	人	145,950	160,056	168,770	144,890	151,090	161,783

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
家庭センターの利用者数	人	120,273	114,123	113,786	112,677	
みどりコミュニティセンターの利用者数(個人利用含)	人	99,005	102,101	94,757	89,315	74,097
地域プラザ・地域ふれあい館整備の着手	エリア	2	2	2	2	2
地域プラザガバナンス会議に参加した人の数	人	84	61	-	-	-
すみだまつり・こどもまつりの参加者数	人	290,000	270,000	290,000	190,000	300,000
成人を祝うつどいへの新成人の参加率	%	59.0	59.3	59.3	58.2	55.2
国内友好都市との交流回数	回	4	4	4	5	5

3 目標と現状(実績)についての分析

<p>指標の推移・施策の課題や問題点について記述</p> <p>・地域プラザ・地域ふれあい館構想については新基本計画に向けて再構築の必要がある。</p> <p>・コミュニティの場づくりについては、施設の整備から情報提供・コーディネート型に施策の重点をシフトしていく必要がある。</p> <p>・「すみだまつり・こどもまつり」及び「成人を祝うつどい」は、実行委員会方式を採用し、協治ガバナンスの推進に寄与している。</p> <p>・友好都市をはじめとする国内都市との交流については、今後も民間交流を中心に推進し、相互理解を図るとともに地域の活性化に資する。</p>

4 今後の施策の運営方針

<p>施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）</p> <p>(1) 優先的に資源投入を図る。</p> <p>(2) 現状維持とする。</p> <p>(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。</p> <p>(4) 資源投入の縮小を図る。</p>
<p>【上記の判断理由】</p> <p>・新基本計画、公共施設マネジメント等の進捗を踏まえ、より効率的な運営を図る必要がある。</p> <p>・都市交流については、引き続き友好都市交流の指針となるガイドラインを作成し、交流の方向性を明確にした上で、事業の拡充等について検討する。</p> <p>・「すみだまつり・こどもまつり」については、経費節減と協賛金の獲得増加に努める必要がある。</p> <p>・「成人を祝うつどい」については、近年実行委員数が減少傾向にあるので、PRに努める。</p>
<p>【今後の具体的な方針】</p> <p>・施設の管理運営については必要な見直しをしていくとともに、各事業について、さらに地域コミュニティを育む場や機会を増やす方向で検討を加えていく。</p> <p>・すみだまつり・こどもまつりについては、様々な方法で協賛募集をPRし、新規企業の獲得を図る。</p> <p>・成人を祝うつどいについては、実行委員の募集方法を改善し、更なる人材の確保を図っていく。</p> <p>・都市交流については、実施基準を策定し、国内諸都市と様々な分野で友好交流を図るとともに、墨田区の魅力を広く発信していく。</p>

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	地域集会所管理運営事業	区民活動推進課	32,602	改善・見直し	公共施設マネジメント実行計画に基づき、統廃合について見直す
2	家庭センター管理運営事業	区民活動推進課	80,124	改善・見直し	新たな事業展開について指定管理者を指導していく
3	地区会館管理運営事業	区民活動推進課	4,286	改善・見直し	公共施設マネジメント実行計画に基づき、統廃合について見直す
4	伊豆高原荘の運営	区民活動推進課	101,494	廃止	
5	みどりコミュニティセンター管理運営事業	区民活動推進課	94,735	現状維持	利用者のニーズを取り入れさらに満足度を高めるように運営を行う
6	健康ハウス管理運営事業	区民活動推進課	86,543	改善・見直し	公共施設マネジメント実行計画に基づき、今後の施設のあり方を見直す
7	スポーツ健康センター管理運営事業	区民活動推進課	101,237	現状維持	早期の修繕を行い、安定した事業運営を継続する
8	本所地域プラザ管理運営事業	区民活動推進課	54,454	現状維持	指定管理者への適切な指導を継続
9	八広地域プラザ管理運営事業	区民活動推進課	88,263	現状維持	指定管理者への適切な指導を継続
10	町会法人化に伴う町会会館の登記料等補助事業	区民活動推進課	0	現状維持	町会の安定的運営のため継続
11	町会・自治会会館建設等支援事業	区民活動推進課	9,198	改善・見直し	町会の安定的運営のため継続
12	すみだまつり・こどもまつり事業	文化振興課	24,523	改善・見直し	今後は協賛金の確保に努める必要がある。
13	成人を祝うつどい事業	文化振興課	4,529	現状維持	今後は実行委員の確保に努める必要がある。
14	国内都市との交流事業	文化振興課	939	現状維持	今後とも住民交流を中心に進めていく。

【評価結果】

- 拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。
- 現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。
- 改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。
- 縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。
- 休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

事務事業名	地域集会所管理運営事業		所管課・係	区民活動推進課
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	北山(内5408)
予算書名称	地域集会所管理運営費		執行実績報告書ページ	P54

1 事業の概要

実施根拠: 墨田区地域集会所設置条例 事業の変遷: 平成18年度より、20か所の地域集会所について、指定管理者制度を導入している。また、東あずま公園集会所、東駒形集会所、梅若橋集会所の3施設については、業務委託契約を行っている。なお、いずれも、まちづくり公社を管理者としている。	事業開始年度	昭和57年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
地域住民及び地域団体	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
指定管理者及び各集会所管理運営協議会による施設の適切な管理運営	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
コミュニティ活動の拠点となる施設が地域住民の協力のもとに管理されるとともに、地域住民の交流や地域団体の活動の場として積極的に活用されることにより、地域住民の連帯意識を高め、健康で文化的なコミュニティの形成及び発展が図られる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	利用回数(指定管理・業務委託)		目標値			
			実績値	7,809	7,998	8,171
成果指標 (目的に対する指標)	利用料金収入(指定管理・業務委託)		目標値			
			実績値	18,425	18,615	18,894
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
前年度に比べ、地元町会・自治会など、地域で活動する団体を中心に利用回数が増加したが、一方で多くの集会所ではエレベーターがないことから、階段を利用する際の不便さが生じている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民施設費	目	コミュニティ会館費
27年度歳出予算額	32,792	27年度歳出決算額	32,602	27年度執行率	99.4%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		31,604
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
町会等が行事に使用することが多く、地域の施設へのニーズは高い。コミュニティ活動の拠点となる施設として、区が事業を実施すべき強い理由があり、事業を休止又は中止をした場合の影響は非常に大きい。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
利用回数・利用収入ともに伸びているが、今後は利用者・地域住民ともに高齢化が予想される。地域の負担を軽減する運営協議会の方式や、利用者の負担を軽減する設備を考慮する必要がある。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
施設数の減少により事業経費は低減している。受益者負担の適正性確保のため、利用料金の改定を検討するとともに、利用率向上策を実施する必要がある。				
(4)現状と課題	施設の老朽化による修繕費負担や構造上の理由(2階以上の施設)から高齢者が利用する際の不便さ等の課題はあるが、地元町会を中心に施設に対するニーズは高い。施設統廃合は検討しなければならないが、廃止の際には地元からの反対が予想される。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	地域の施設へのニーズは高く、コミュニティ活動の拠点として果たす役割は大きい。地域の利便性を確保しつつ、稼働率の向上を図ることが必要である。
今後の方向性(見直しの視点)	公共施設マネジメント実行計画に基づき、統廃合についての検討を進めるとともに、稼働率向上策を導入する。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	家庭センター管理運営事業		所管課・係	区民活動推進課
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	高瀬(内5408)
予算書名称	家庭センターの管理運営に要する経費を計上		執行実績報告書ページ	P51

1 事業の概要

実施根拠: 墨田区家庭センター条例 事業の変遷: 平成18年4月1日から指定管理者制度を導入し、まちづくり公社を指定管理者として指定している。平成26年度に4回目の指定管理者の選定を非公募で実施したが、建物の老朽化に伴い27年度末に廃止となった。	事業開始年度	昭和46年
	終了予定年度	平成27年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか

地域住民及び地域団体	に対して
------------	------

【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)

指定管理者による事業計画	を実施したことで
--------------	----------

【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか

地域住民及び地域団体が、当該施設をコミュニティ形成に資する活動等を実施する場として積極的に活用する	状態にする。
---	--------

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	実施事業数	事業	目標値	/	/	/
			実績値	24	24	27
成果指標 (目的に対する指標)	モニタリング調査において「イベント・講座の充実度はどうですか」の質問に対して満足度5~3(5段階中)と回答した割合	%	目標値	/	/	/
			実績値	78.94	76.19	70.00

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

成果指標の実績値が高い数値で推移していることから、区民ニーズを踏まえた内容で実施できた。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民活動推進費	目	区民活動推進総務費
27年度 歳出予算額	82,161	27年度 歳出決算額	80,124	27年度 執行率	97.5%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 有	一般財源 有	/	
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
福祉の増進、コミュニティ形成の場として家庭センターの果たした役割は大きい。中でも長寿室事業や生きがい趣味の教室は、高齢者向けの事業として閉館後も継続を望む声が多く、まちづくり公社の自主事業として実施している。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
高齢者の生きがい対策事業として有効である。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
他課と競合する事業もあることから見直しが必要と思われる。				
(4)現状と課題	高齢者事業は、家庭センター閉館後も地域集会所の長寿室を中心に生きがい対策事業として引き継がれている。事業の果たす役割は大きいですが、他課の事業と競合する部分もあるので、一部の事業については整理・統合が必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	利用者の幅広いニーズに応えるよう、競合する事業を見直す必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	長寿室事業は指定管理者であるまちづくり公社が実施している。今後は世代を超えた地域コミュニティ事業としての事業展開が図れるよう誘導していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	地区会館管理運営事業		所管課・係	区民活動推進課
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	03-5608-6200
予算書名称	地区会館の管理運営に要する経費を計上		執行実績報告書ページ	P52

1 事業の概要

実施根拠: 墨田区地区会館条例 本事業により管理・運営している施設は、「向島言問会館」「菊川分室」「柳島集会室」「京島会館」の4館である。 条例により定められている地区会館は「向島言問会館」のみであり、同館については平成18年度より指定管理者制度を導入している。残りの3館については業務委託契約により管理運営を行っている。(全てまちづくり公社が管理を受託している。)	事業開始年度	昭和58年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
地域住民及び地域団体	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
指定管理者による着実な事業計画	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
コミュニティ活動の拠点となる施設として、地域住民の交流や地域団体の活動の場として積極的に活用されることにより、地域住民の福祉の向上が図られる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	利用者数	人	目標値			
			実績値	16,963	16,264	16,178
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
利用者数は減少傾向にあるが、地域住民のコミュニティの形成を図る各種事業の実施を行い、利用者からのニーズも高い。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民施設費	目	地区会館費	
27年度 歳出予算額	4,294	27年度 歳出決算額	4,286	27年度 執行率	99.8%	28年度 歳出 予算額	4,297
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
主に長寿室として利用されているため事業を実施すべき理由は大きい。利用者の高齢化のため、今後も利用者の減少傾向は続くと予想される。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
指定管理者や業務委託受託者により適切に管理されており、地域住民のコミュニティの形成に有効である。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
利用者の高齢化と利用人数の減少に対応して、実施事業の統廃合の検討が必要である。				
(4)現状と課題	昼間は主に長寿室として利用されるため、施設統廃合の際には、代替施設の検討や事業の見直しが必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	施設稼働率が20%以下の施設が半数を超えており、公共施設マネジメント実行計画に基づき、統廃合や適正配置について見直す必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	公共施設マネジメント実行計画に基づき、統廃合について見直していく。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

事務事業名	伊豆高原荘の運営		所管課・係	区民活動推進課
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	03-5608-6200
予算書名称	伊豆高原荘管理運営経費		執行実績報告書ページ	P53

1 事業の概要

昭和54年1月29日 区制施行30周年を記念して開設 平成18年4月1日 指定管理者制度導入 平成28年3月31日 墨田区公共施設マネジメント第1次実行計画に基づき廃止	事業開始年度	昭和53年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区民・区内在勤者・その他指定管理者が特に認めた者(区外居住者)						に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
指定管理者の創意工夫の中、少ない経費で多くの利用者が余暇を過ごすにあたり交流できる施設にする。						を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
区民をはじめ多くの利用者で常に保養所の稼働率が高まり、健康増進が図られている。						状態にする。	
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	利用者数		人	目標値			
				実績値	14,801	15,982	16,958
成果指標 (目的に対する指標)				目標値			
				実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
平成18年度から指定管理者となり利用者数は増加した。 指定管理者の自主事業として以下の事業を実施し、利用者の増に寄与した。 ・バスツアー 27年度実績22回691人 ・団体貸切バスツアー 27年度実績2団体36人 ・その他、季節に応じて特別企画事業や各種体験教室を実施した。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民施設費	目	保養所費	
27年度歳出予算額	101,675	27年度歳出決算額	101,494	27年度執行率	99.8%	28年度歳出予算額	0
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果		前年度評価	低い
平成28年3月31日廃止				
(2)事業の有効性	評価結果		前年度評価	どちらかといえば有効
平成28年3月31日廃止				
(3)事業の効率性	評価結果		前年度評価	低い
平成28年3月31日廃止				
(4)現状と課題	跡地の利用方法検討			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	廃止	判定理由	
今後の方向性 (見直しの視点)			

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

事務事業名	みどりコミュニティセンター管理運営業務		所管課・係	区民活動推進課
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	03-5608-6592
予算書名称	みどりコミュニティセンター管理運営費		執行実績報告書ページ	P54

1 事業の概要

墨田区みどりコミュニティセンター条例(平成7年墨田区条例8号)及び同施行規則(平成7年墨田区規則第30号)の規定により、平成7年6月1日に「地域住民の福祉の増進及び健康で文化的なコミュニティの形成と発展を図るため、地域住民の活動の場」として開館した。 なお、地方自治法第244条第2項の規定により、平成18年度から指定管理者制度を導入した。	事業開始年度	平成7年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
地域住民	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
指定管理者による事業計画	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
福祉の増進及び健康で文化的なコミュニティの形成と発展が図られた	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	自主事業実施数 (センターまつり含む)	事業	目標値	/	/	/
			実績値	17	17	20
成果指標 (目的に対する指標)	モニタリング調査において「イベント・講座の充実度はどうか」の質問に対して、満足度5～3(5段階評価)と回答した割合	%	目標値	/	/	/
			実績値	90.0	95.8	98.1

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

平成27年度は「館内空調設備の更新工事」に伴う約2か月半の休館期間があったため、利用者数は減少しているが、1月あたりの利用者数では団体・個人ともに約5%伸びている。指定管理者も自主事業を積極的に企画・実施し、利用者増加に取り組んでいる。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民施設費	目	コミュニティ会館費	
27年度歳出予算額	104,596	27年度歳出決算額	94,735	27年度執行率	90.6%	28年度歳出予算額	50,050
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
地域住民の福祉の増進、地域コミュニティの形成の場として区民等に寄与している。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
指定管理者の事業努力で、施設の利用者や事業の参加者が増加し、実績は向上している。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
施設利用率の向上に伴い利用料収入が増加しているため、指定管理料の削減が可能と思われる。				
(4)現状と課題	モニタリング調査や利用者アンケートを実施し、区民サービスの向上が適切に図られているかの確認をする必要がある。施設状況について報告を受け、安全な管理運営を図るため指定管理者に対する指導を適切に行う必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	指定管理者による安定的な運用を継続する。
今後の方向性 (見直しの視点)	家庭センターの廃止に伴い、区南部の「コミュニティ施設」の核として、利用者のニーズを取り入れさらに満足度を高めるように運営を行う。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	健康ハウス管理運営事業		所管課・係	区民活動推進課区民活動推進担当
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	5608-6592
予算書名称	すみだ健康ハウス管理運営		執行実績報告書ページ	P56

1 事業の概要

すみだ健康ハウス条例・すみだ健康ハウス条例施行規則 平成18年4月1日から「すみだ健康ハウス管理組合」による指定管理開始	事業開始年度	平成10年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民等					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
指定管理者による適切な管理運営					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
健康の増進及び回復並びに心身の休養を図る					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	自主事業実施数	事業	目標値	/	/	/
			実績値	9	11	12
成果指標 (目的に対する指標)	モニタリング調査において「イベント・講座の充実度はどうですか」の質問に対して満足度5～3(5段階中)と回答した割合	%	目標値	/	/	/
			実績値	67.3	84.6	84.1
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
指定管理者により、利用者サービスの拡充のため自主事業を毎年度実施しているが、満足度については数に比例して増加していない。これは利用者のニーズにあった事業を展開できていないことが考えられるため、今後は利用者ニーズに合わせた事業を実施していく必要がある。平成26年度から一定の改善が見られたため、今後も継続して利用者ニーズに合わせた事業を実施していく。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民施設費	目	健康ハウス費	
27年度 歳出予算額	95,567	27年度 歳出決算額	86,543	27年度 執行率	90.6%	28年度 歳出 予算額	77,781
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<ul style="list-style-type: none"> 利用者数は横ばいであるが、区民の心身と健康の増進・回復を図る施設として利用者ニーズがある。事業を休止・中止した場合も、これらを目的として利用する区民に影響がある。 清掃工場からの余熱を利用する地域還元健康回復入浴施設として必要であるが、現在は余熱の供給が停止しており、類似の民間施設の活用も検討する余地はある。 				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成するための指標は横ばいであるが、指定管理者の努力により安定したサービスを提供できており、今後は指標の上昇が期待できる。 温水使用施設の専門知識を有する「すみだ健康ハウス管理組合」が指定管理者として施設の管理運営を行うことで有効に事業を実施できている。 				
(3)事業の効率性	評価結果	非効率	前年度評価	非効率
<ul style="list-style-type: none"> 経費については、現在ボイラー稼働により運営を行っていること及び施設の老朽化により工事費用がかかることから増加傾向にある。 受益者負担については、減免利用適用の利用者が多いことが経営に影響を与えている。 				
(4)現状と課題	モニタリングや利用者アンケートを実施し、サービスの向上度を検証する必要がある。また、開館して20年近くが経過しており施設の老朽化が著しく、高温水供給管の破損等もあり、計画的な修繕が必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	大規模修繕を行う時期を迎えることから、今後の施設のあり方について検討する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	公共施設マネジメント実行計画に基づき、今後の施設のあり方について見直していく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	スポーツ健康センター管理運営事業		所管課・係	区民活動推進課区民活動推進担当
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	5608-6592
予算書名称	スポーツ健康センター管理運営		執行実績報告書ページ	P56

1 事業の概要

すみだスポーツ健康センター条例 すみだスポーツ健康センター条例施行規則 平成18年4月1日から「住友不動産エスフォルタ株式会社」による指定管理を開始。 平成26年4月1日からも継続して同社を含む指定管理者JVを指定している。	事業開始年度	平成12年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		区民・地域団体等	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		指定管理者による適切な管理運営	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		区民のレクリエーションの普及振興及び健康の増進を図り、健康で文化的な区民生活の向上に寄与する	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	利用者数	人	目標値	/	/	/
			実績値	115,524	119,006	130,415
成果指標 (目的に対する指標)	モニタリング調査において「イベント・講座の充実度はどうですか」の質問に対して満足度5～3(5段階中)と回答した割合	%	目標値	/	/	/
			実績値	91.9	87.7	67
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
利用者数は前年度と比べ増加している。成果指標については、20ポイント減少しているが、指定管理者が自主事業を積極的に行い、利用者の増加に取り組んでいる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民施設費	目	スポーツ健康センター費	
27年度 歳出予算額	101,822	27年度 歳出決算額	101,237	27年度 執行率	99.4%	28年度 歳出 予算額	100,434
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者の積極的な自主事業展開により利用者が増加し、今後、利用者ニーズの高まりが予想される。 健康増進施設として多くの区民が利用していることから、今後の事業展開に期待するところが大きい。 利用者が増加していることから、事業を休止・中止した場合の影響は大きい。 				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<ul style="list-style-type: none"> 今後の事業展開によっては指標実績値の伸びが期待できる。 指定管理者による多様な自主事業の展開、安定したサービスの提供など、効果的な施設運営が行われている。 				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<ul style="list-style-type: none"> レジャー施設的な要素を持った屋内体育施設であることから、他施設との統合は困難である。 利用者数の増加に伴い、料金収入は安定しており、運営経費はほぼ横ばいである。しかし、開館から15年が経過しており、今後は修繕費の増大が見込まれる。 				
(4)現状と課題	経年劣化が著しく、早期の修繕が必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	指定管理者の積極的な事業展開により、安定した稼働率が維持されている。
今後の方向性 (見直しの視点)	早期の修繕を行い、安定した事業運営を継続する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	本所地域プラザ管理運営事業		所管課・係	区民活動推進課区民活動推進担当
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	5608-6592
予算書名称	地域プラザ管理運営費		執行実績報告書ページ	P57

1 事業の概要

平成25年10月:本所地域プラザ開館	事業開始年度	平成25年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		区民・地域団体等	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		指定管理者による適切な管理運営	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		協治(ガバナンス)を担う区民等の交流及びコミュニティ活動の拠点となる	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	施設利用料金収入	千円	目標値		6,782	9,504
			実績値	3,216	12,429	14,293
成果指標 (目的に対する指標)	施設利用率	%	目標値		30	45
			実績値	23	41	54
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
指定管理者による適切な管理運営が行われている。 今後も指定管理者と協力し、利用率向上のため、施設のPRを積極的に行う必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民施設費	目	地域プラザ費	
27年度 歳出予算額	55,000	27年度 歳出決算額	54,454	27年度 執行率	99.0%	28年度 歳出 予算額	53,287
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	施設利用料金			収入額	14,292
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<ul style="list-style-type: none"> ・協治(ガバナンス)を担う区民の活動の拠点として、ニーズが高い。地域活動が活発化していく中で、今後もニーズが高まることが予想される。 ・協働を推進していくための「活動の機会又は場所の提供」として、区が実施する理由がある。 ・施設が認知され、利用率が上昇している中、事業の休止・中止は大きな影響がある。 				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<ul style="list-style-type: none"> ・開館からの3年間において、施設利用率は上昇している。施設認知度の上昇により、利用率も上昇していくことが予想される。 ・施設整備当初から検討を行ってきた運営協議体を母体として設立された「一般社団法人 地域プラザBIGSHIP」が指定管理者であることから、地域のニーズに基づいた事業展開がなされており、施設管理についても適切に行われている。 				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<ul style="list-style-type: none"> ・関連・類似事業との統合は不可能である。 ・利用料金収入の増加により、指定管理料の削減につながった。 ・利用料金を設定しており、受益者負担は妥当である。 				
(4)現状と課題	協治(ガバナンス)にもとづく地元住民による管理運営と、利用者サービス向上・効率的な管理運営が相反するという懸念がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	適切な管理運営が行われており、利用率も上昇してきているため、現状を維持しつつ引き続き注視する。
今後の方向性(見直しの視点)	地域住民が組織した一般社団法人による指定管理施設として運営しており、協治(ガバナンス)によるまちづくりの観点から、引き続き協働を進める。		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

事務事業名	八広地域プラザ管理運営事業		所管課・係	区民活動推進課区民活動推進担当
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	5608-6705
予算書名称	八広地域プラザ管理運営費		執行実績報告書ページ	P57

1 事業の概要

平成23年度: 体育館を暫定開館。 平成25年4月: 八広地域プラザ本館を開館。 7月: 多目的運動場を開館。	事業開始年度	平成23年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		区民・地域団体等	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		指定管理者による適切な管理運営	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		協治(ガバナンス)を担う区民等の交流及びコミュニティ活動の拠点となる	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	施設利用料金収入	千円	目標値	15,100	6,704	7,736
			実績値	6,386	9,243	10,083
成果指標 (目的に対する指標)	施設利用率	%	目標値	/	40	50
			実績値	38	48	57
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
指定管理者による適切な管理運営が行われている。 今後も指定管理者と協力し、施設利用率向上のため、施設のPRを積極的に行う必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民施設費	目	地域プラザ費	
27年度 歳出予算額	88,366	27年度 歳出決算額	88,263	27年度 執行率	99.9%	28年度 歳出 予算額	77,280
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	施設利用料金			収入額	10,083
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準			補助率				

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>・協治(ガバナンス)を担う区民の活動の拠点として、ニーズが高い。地域活動が活発化していく中で、今後もニーズが高まることが予想される。</p> <p>・協働を推進していくための「活動の機会又は場所の提供」として、区が実施する理由がある。</p> <p>・施設が認知され、利用率が上昇している中、事業の休止・中止は大きな影響がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>・施設利用率は上昇しており、指定管理者による適切な管理運営が行われている。</p> <p>・施設整備段階から検討に携わってきた「八広地域プラザ運営協議会」によって、地域ニーズに基づいた事業展開が行われている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>・関連・類似事業との統合は不可能である。</p> <p>・指定管理者制度を導入して効率化を図っており、利用料金収入の増加に伴い、指定管理料も減少している。</p> <p>・受益者負担は他施設と比較しながら、適正な利用料金を設定している。</p>				
(4)現状と課題	協治(ガバナンス)の考え方に基づく地域住民による管理運営と、利用者サービスの向上・効率的な管理運営を両立させるため、適切に指定管理者を指導・支援していく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	適切な管理運営が行われており、利用率も上昇してきているため、現状を維持しつつ、引き続き経過を注視する。
今後の方向性(見直しの視点)	地域住民が組織した一般社団法人を指定管理者として施設の管理運営を行っており、協治(ガバナンス)によるまちづくりの観点から、引き続き協働を進める。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	町会・自治会会館建設等補助事業		所管課・係	区民活動推進課区民活動推進担当
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	5608-6201
予算書名称	建設費等補助費及び福祉関連施設等整備補助費		執行実績報告書ページ	P48

1 事業の概要

町会・自治会が設置する町会・自治会会館の建設等(新築、増築、改築、修繕、模様替え、建物・土地の購入)に要する経費の一部を補助金として交付している。 実施根拠: 墨田区町会・自治会会館建設等補助金交付要綱 墨田区町会・自治会会館施設整備補助金交付要綱 事業の変遷: 建設等補助(昭和57年度開始) 施設整備補助(平成4年度開始)	事業開始年度	昭和57年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		町会・自治会会館を所有する町会・自治会	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		申請に基づき、町会・自治会会館の建築等に係る経費の一部助成	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		町会・自治会活動が活性化し、良好なコミュニティが形成される	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	建設等補助金交付件数	団体	目標値		6	6
			実績値	3	4	3
活動指標 (手段に対する指標)	施設整備補助金交付件数	団体	目標値		6	6
			実績値	4	9	8
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
町会・自治会会館の建設等に対する助成の需要は、毎年多少の変動はあるものの存在する。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	区民活動推進費	目	区民活動推進総務費	
27年度 歳出予算額	30,000	27年度 歳出決算額	9,198	27年度 執行率	30.7%	28年度 歳出 予算額	32,000
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 9,198			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		町会・自治会会館建設等補助金					
27年度 実績額	5,198	28年度 予算額	27,000	対象	町会・自治会会館を所有する町会・自治会		
開始 年度	昭和57年度	根拠法令	墨田区町会・自治会会館建設等補助金交付要綱				
算定基準	会館の建築等に掛かる費用			補助率	かかった費用の50パーセント以内。ただし500万円を限度とする。		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>町会・自治会活動の拠点となる施設が確保されることにより、町会・自治会活動が活性化し、良好なコミュニティが形成される。また、町会・自治会会館の整備には多大な費用が掛かり、町会・自治会の財源のみで賄うことは難しいことから、区からの助成は必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>交付件数は年によってばらつきがあるが、町会・自治会の財源や会館整備の緊急性によって変動が生じる。また、実績払いとすることで、町会・自治会側の戻入手続の手間がないことから、手段としては有効である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>町会・自治会会館に対する助成金は他になく、助成額についても掛かった費用の50パーセント以内としていることから、一定の受益者負担も求めており、事業の効率性は高い。</p>				
(4)現状と課題	<p>町会・自治会会館の中には、築年数の経過により老朽化の激しい建物もある。また、土地・建物の取得には多大な費用が掛かり、所有権の取得が難しいケースがあるので、よりニーズに合った助成の方法を検討していく。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	<p>町会・自治会活動の拠点である町会会館の安定的維持のための本助成制度は、地域コミュニティの核としての町会・自治会の支援を図る上で、今後とも継続していく必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>28年度からは、耐震診断費用の一部を助成できるよう見直した。 また、土地・建物の賃借権の設定に係る初期費用の一部についても助成を行うことで、今まで会館のなかった町会・自治会の自主的活動の場の確保ができるよう改善した。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	27年度第3回定例会	
	要旨	<p>町会会館は地域コミュニティにとっても、防災面からも重要な機能を担っている施設である。是非、町会会館の維持管理について、もう一歩踏み込んだ対応を望む。</p>	

事務事業名	すみだまつり・こどもまつり事業		所管課・係	文化振興課 文化行事担当
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	5608-6181
予算書名称	すみだまつり・こどもまつり経費		執行実績報告書ページ	59

1 事業の概要

「すみだまつり」は、昭和51年に「環境をよくする運動」の一環の「環境まつり」として実施。その後、各種団体が参画し「区民まつり」と名称を変えて行われた。昭和55年の第5回からは、地域の連帯と交歓の輪を広げるため「すみだまつり」と名称を変更し、「すみだまつり実行委員会」「墨田区」「墨田区文化観光協会(現：一般社団法人 墨田区観光協会)」の共催で実施している。 「こどもまつり」は、昭和46年に「交通安全こどもの日のつどい」の名称で開催。昭和52年の第7回に「こどもまつり」と名称変更。こどもたちの安全と健康で明るい成長を願うとともに、こどもたちの友情・連帯の輪を広げ、コミュニケーションを図ることを目的とする。平成13年度から、すみだまつりと同時開催となる。	事業開始年度	昭和51年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区民及び来街者						に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
区民と行政によって組織した実行委員会が企画・運営を行うことにより、実行委員・出演者・来場者としての区民の参加を促すとともに、区民間はもとより区民と来街者の交流を図る機会としての本まつり						を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
「ふるさと墨田」のまちづくり意識の高揚と地域振興が図られる。こどもたちが健全に成長し友情が深められている。来街者は墨田区に親しみを持ってもらう。						状態にする。	
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	来場者数		万人	目標値	なし	なし	なし
				実績値	29	19	30
成果指標 (目的に対する指標)	スタッフ及び参加者・参加団体 (実行委員・ボランティア・出演者等)		延べ人・団体数	目標値	なし	なし	なし
				実績値	1,187	438	1,116
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
約40年間に亘る長い歴史のもと、区の基本理念である「協治(ガバナンス)」を实践する区民交流の場として十分に認知され、また近年では来街者に向けても墨田区を知り、楽しんでもらうイベントとしての要素を成しており、事業の目標は概ね達成できている。なお、平成26年度は、2日目が荒天のため、多くの催しが中止となり、来場者数等が大幅減となった。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	区民行事費	
27年度歳出予算額	24,545	27年度歳出決算額	24,523	27年度執行率	99.9%	28年度歳出予算額	23,545
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		すみだまつり実行委員会補助金					
27年度実績額	24,500	28年度予算額	23,500	対象	すみだまつり実行委員会		
開始年度	昭和58年度	根拠法令	すみだまつり実行委員会補助金交付要綱				
算定基準	単年度補助			補助率	すみだまつり・こどもまつり開催経費の予算補助		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>「協治(ガバナンス)」の基幹をなす事業の一つであり、代替する「まつり」(イベント)がないため。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>毎年、2日間で延べ30万人ほどが来場する事業であるため。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>安全面への更なる配慮等から設営費は増加しているが、受益者負担は据え置き状況にあるため。</p>				
(4)現状と課題	<p>若年の実行委員及び協賛金収入等の更なる確保が課題である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	区民に浸透・定着しているイベントであり、適宜、内容の見直し・改善を図りながら継続実施していく。
今後の方向性 (見直しの視点)	更なる経費節減と協賛金の獲得増に努めるとともに、新たな企画の検討・内容の見直しを行い、より魅力ある事業としていく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年決算特別委員会 平成28年予算特別委員会
	要旨	すみだ親善大使選考会出場者の応募状況や募集手段等について すみだまつり会場内での駐輪について

事務事業名	成人を祝うつどい事業		所管課・係	文化振興課 文化行事担当
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	5608-6181
予算書名称	成人を祝うつどい経費		執行実績報告書ページ	59

1 事業の概要

昭和24年 成人の日制定 昭和31年 墨田区において、第1回「成人はたちのつどい」開催 平成10年頃から新成人による歓談会開催 平成13年度から新成人の実行委員により企画・運営する実行委員会方式を採用	事業開始年度	昭和31年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
新成人となる区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
新成人で構成する実行委員会が企画から当日の運営までを行うことにより、新成人が共感できる参加率の高い式典	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
より多くの新成人を祝うとともに、成人としての自覚を促すことができる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	式典参加人数	人	目標値	1,200	1,200	1,200
			実績値	1,076	1,162	1,057
成果指標 (目的に対する指標)	式典参加率	%	目標値	60	60	60
			実績値	59	58	55
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
平成13年度から、新成人の実行委員が企画・運営を行ってきたことにより、新成人のマナー向上や式典内容の充実を達成できた。しかし、式典参加率は横ばいの状況である。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	区民行事費
27年度 歳出予算額	4,736	27年度 歳出決算額	4,529	27年度 執行率	95.6%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>新成人を祝うとともに、成人としての自覚を促す機会をつくることが行政の役割として必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>新成人に案内状を送付するとともに、区報やホームページ等でPRを行っているが、参加率向上に向けた改善が必要である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>類似事業はなく、統合等は難しい。</p>				
(4)現状と課題	<p>近年、実行委員の推薦及び応募数が少ないため、より効果的な募集方法を検討する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>全国の自治体において、新成人を祝う行事が行われているが、本区の採る実行委員会方式は最も的確な方法であり、今後も、継続していく。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>本事業の成否は実行委員の力量によるところも大きいので、実行委員の人材確保に努め、より魅力的な事業としていく。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	国内都市との交流事業		所管課・係	文化振興課 文化・国際担当
施策	512	地域コミュニティを育む場や機会を増やす	連絡先	5608-6212
予算書名称	国内都市との交流推進経費		執行実績報告書ページ	59

1 事業の概要

墨田区台東区姉妹区提携宣言(昭和52年) 台東区主催各種催事への展示・資料配布等 墨田区と小布施町との友好協力に関する協定(平成8年) 都市農村交流事業(農家体験事業)、都市交流体験事業(小布施町小学生の伝統工芸体験事業)の実施、都市交流展、すみだまつり物産展への参加 墨田区と朝日村との友好協力に関する協定(平成9年) 山形県鶴岡市(旧朝日村)、すみだまつり物産展への参加 墨田区と鹿沼市の友好交流・協力に関する協定(平成24年) ふるさと貸し農園事業及びすみだまつり物産展への参加等	事業開始年度	左記のとおり
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		に対して				
国内友好都市(台東区、長野県小布施町、山形県鶴岡市、栃木県鹿沼市) その他の国内諸都市 墨田区を含む各都市の住民及び事業者						
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		を実施したことで				
住民交流事業 都市紹介事業						
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		状態にする。				
住民の相互理解が図られるとともに、それぞれの地域が活性化している						
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	国内友好都市との交流回数	回	目標値	4	5	5
			実績値	4	5	5
成果指標 (目的に対する指標)	その他の国内都市との交流回数	回	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	1
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
・長野県小布施町との交流:都市農村交流事業、都市交流体験事業(小布施町小学生の伝統工芸体験事業) ・栃木県鹿沼市との交流:ふるさと貸し農園事業、こどもまつりへの出展(版画教室) ・すみだまつりにおける物産展への出展 ・友好都市交流展の実施 ・災害時(例:H27鹿沼市大雨被害)支援 等 により、一定の都市交流の推進が図られている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円)*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	国際交流等推進費	
27年度 歳出予算額	1,115	27年度 歳出決算額	939	27年度 執行率	84.2%	28年度 歳出 予算額	1,115
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
地域の活性化のためには、文化や慣習等を異にする他都市との交流が一定程度必要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
平成26年度から友好都市交流展を実施するなど、改善を図って進めている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
他区市町との連携事業であり、墨田区単独では効率化できない。一部については、他の関連・類似事業との統合は可能であり、交流を継続していくためには、区民・民間交流主導で進めていく必要もある。				
(4)現状と課題	従来からの交流自治体については、交流内容の変更を検討するところもあり、交流内容に沿った主管課と繋げていく必要がある。また、新規の交流希望都市や一部の既存交流都市は、都市紹介が主な目的となっており、交流のきっかけづくりと紹介している物産展が主な事業となってしまう。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	観光課の事業も含め都市紹介事業は充実してきているが、中心となるべき住民交流事業については実質的に縮小傾向にあるため。
今後の方向性 (見直しの視点)	交流を開始する際には、住民間の交流が図られる提案を求めるようにするなど、単なる都市紹介の足掛かりとさせない基準づくりを行う。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年第4回定例会
	要旨	都市間交流のあり方について